

風邪やインフルエンザが流行っているようです。我が家でも、下の子供に始まり、上の子供、妻が次々と風邪でダウンし、恐れていた通り、最後には私にも風邪が回ってきました。家族4人とも主な症状は似ていましたが、その症状のひどさや持続期間には違いがありました。大人はなかなか咳せきが消えなかったのですが、子供は寝込んだりしたものの、その回復は早かったように思います。同じ病原体によるものであったとしても、年齢や身体の防御機能には違いがあるのですから症状などが異なるのも当然なのでしょう。

さて、今月号は、鉄道におけるヒューマンユーマンサイエンスと題し、より安全・快適な鉄道を目指して、さまざまな条件

や環境における人の反応やふるまいを科学的に明らかにし、対策を提案する取り組みについて紹介しました。その対策は、個人や組織に働きかけるものもあれば、環境やシステム側に働きかけるものもあります。風邪の症状と同じですが、人の反応のあり様には、共通する部分だけでなく、必ず異なる部分があります。どの取り組みでも、ある一定の関係に着目するのは当然ですが、この個人差をどのようにとらえ、どのように対処・アプローチしていくかは取り組みによって異なります。

来月号では、鉄道の国際標準化活動について特集します。鉄道の国際規格に焦点を当てて、最近の国内外の活動成果や将来の展望について紹介します。どうぞご期待ください。(N. M.)